

# 京都の生協

NO. 21

- ひとときトーク[大村しげさん]
- あなたも地球協同組合人(3)
- 環境問題を追う〈連載(3)〉
- 中東に、世界に平和を

発行/京都府生活協同組合連合会

April ● 1991

〒604 京都市中京区烏丸二条角 西和ビル6F  
TEL.075-251-1551 FAX.075-251-1555

**進む。** 今をときめくアスキー社長・西和彦氏に話を聞いた。壁掛けテレビやテレビ電話、机の上で人間と対話しながら食事の後片付けまでしてくれるようなロボット。「今のコンピュータは車でいえば商用車。もっとスポーツカーやセダンタイプのファミリーユースのものになります」「夢を持つことができるかどうか、です」。大村しげさんと木原会長の対談を聞いた。「洗濯機なんて必要ありません」「今の科学技術の進歩はかえって人間を退化させているのでは…」。

人類の進歩に期待と夢を膨らます一方で、手を使うことを忘れて、ブラックボックスばかりに囲まれ始めたら…と恐れる。

カントは『世界市民的意図における一般的歴史のための理念』で、「人間が自然を人間に都合よく改変しているのではない。自然が人間をして、よりよく調和させようとしている」という趣旨のことを語っていますが、はてさて人類はどんな方向にすすむのか。個人的には「いわゆる頭のいい人は、言わば足の早い旅人のようなものである。人より先に人のまだ行かない所へ行き着くこともできる代わりに、途中の道端あるいはちょっとしたわき道にある肝心なものを見落とす恐れがある」という寺田寅彦の言葉（寺田寅彦随筆集）に共感するのですが…。



あるおばあさんの死



乙訓医療生活協同組合理事長

蔡 東 隆

あるおばあさんが脳梗塞の悪化で入院、3ヵ月ほどして病状改善し退院することになった。退院時は、意欲低下で無欲状態、発語減少著明、食事は介助つきで何とか可能、排泄は介助つきでポータブル、座位辛うじて可、歩行不能という状態である。以前は弟さんと同居して世話を受けていたが、その弟さんも病身となり、退院後は元の家に戻るわけにいかず、遠く離れた息子さんが引きとることになった。結婚後一度も同居することなく、日常のコミュニケーションもあまりないと思われる息子夫婦の家に、殆どねたきりに近い状態で意志の疎通も持てないおばあさんが、家族の一員として入り込むことになった。息子夫婦にとっては、まさに思いもかけない<sup>ちん</sup>闖入者であり、当然ながら一大事である。

おばあさんを引きとるにあたり家族がその受入れについて論議し、心構えの上でも介護の面でも十分な準備が出来ていたかどうかについては、つまびらかではないが、入院していた病院の紹介で突然私たちの診療所がこのおばあさんを受け持つことになった。当然24時間ケアを必要とするこのおばあさんに対する家族の対応状況からみて、私たちは密な訪問看護と往診を余儀なくされた。しかし、私たちがどんなに密な訪問をしたとしても、所詮、日常介護のマンパワーにはなり得ない。介護体制の不足、介護手法の未熟、居住環境の不備などが重なり合って、忽ちのうちに完全なねたきり状態に陥り、余病を併発して病状は悪化の一途を辿り、退院後1ヵ月半にて72歳の生涯を閉じた。

この在宅ケア症例の淋しい結末は、私たちに多くの教訓と反省を与えてくれた。のみならず、受入れ家族、入院していた病院、行政側の対応など、幾多の課題を包含していることも教えてくれた。この“人為的な死”“社会的な死”ともいえる一老人の命の終焉<sup>えん</sup>は、私たちに在宅医療の何たるかをあらためて問い直してくれた貴重な死である。

高齢社会に向けてQOL (Quality of life) の向上が取り沙汰されているものの、在宅ケアの大部分が家族の犠牲の上に成り立っている現状からみれば、まだまだいくつものハードルを越えなければならない。これらの障害をみんなの力で一つ一つのり越え、在宅医療を社会全体で支えられる体制を一日も早く作りたいものだ。無論、行政側の発想の転換、抜本的対応が急がれることは論を俟たない。

さもなくば、北欧の福祉事情をみるにつけ聞くにつけ、只々羨望<sup>せんぼう</sup>の念がつのるばかりである。

CONTENTS

- 1 ひとときトーク [ゲスト/大村しげさん]
- 5 2月全国組合員活動交流集会に参加して
- 6 TOPICS/誰もがあたりまえの生活を、地域でできるために
- 7 2つ目の「助けあいの会」がうぶ声をあげました。
- 8 網野町に産婦人科医院を!
- 9 みんなでつくる映画会
- 10 <連載/あなたも地球協同組合人(3)> 21世紀の協同組合
- 12 環境問題を追う <連載3>
- 13 TOPICS/あとは合格を待つばかり!?
- 14 中東に、世界に平和を
- 16 TOPICS/「職場に生協利用増大運動の風をまきおこそう」と訴え
- 17 気になるこの本

ひとときトーク

「実は私んとこ、洗濯機がないんですよ」「えっ実は私のところも使ってないんですよ」「いやーうれしい。心丈夫になりましたわ」—思わぬ話の展開で、すっかり意気統合したお二人。今回の「トーク」では、京都に生まれ育ったお二人が体で知っている「京都の暮らし」「京都が持っているいいもの」

について、思う存分に語っていただいた。「本当の豊かさとは何か」がするどく問われはじめている今日、消費社会の私たちのくらしの在り方をも問われている。お二人の話は、現代を生き未来につながる私たちに、大切な何かを伝えてくれているように思う。(文責・編集部)

ゲスト 随筆家

大村しげさん

京都府生協連会長

木原正雄

ホスト





プロフィール

大村しげ (おおむら・しげ)

1918年、京都・祇園に生まれる。京都女専 (現京都女子大) 国文科に学ぶ。著書に「京の手づくり」「静かな京」「京・四季の味」「中公ミニムックス・京の食べもの歳時記」ほか。

京都のくらしは新しい

木原 お忙しいところをありがとうございます。今日はひとつ京都にこだわって(笑)、お話をうかがいたいと思っています。とにかく最近、一番気になるのは「京都が京都でなくなる」という事態の進行です。それは京都ホテルや京都駅舎の建て替えに代表されるまちづくりや景観の問題はもちろんです。京都の生活文化の変化という問題があると思います。昔のしきたりですとか、食文化ですとか、何も昔のままでもいいとは思いませんが、その良さが失われているような気がしています。大村さんの本を読ませていただいて、「くらしの原点」のようなものを感じて、なおさらそのことを痛感するのですが…

大村 京都のくらしと申しますのは、たいへん合理的です。おっしゃるように、古いばかりと違って、合理的でむしろ新しいくらしやろと思うてます。

昔のお母さんは賢いのですよ。私ら8のつく日

私のとこね、洗濯機もないんですよ。

には「あらめ」と「おあげ」をたいて、いただきました。そやけど子どもの頃、ダシジャコが口のなかでクシャクシャしますんで、「いや」と言うて食べへんのです。そうしましたら母が「ちゃんとおあげり。それ食べな賢くならへんえ」と言わはる。「これ食べてたら病気しやへんえ」とかね。私は「そうかいな」と思うて食べてたんです。今になって、なかなかうまいこと言わはるなあと思うてます。

でもね、今の方に同じこと言うても「なんでです」と聞かはんのですよ(笑)。「いや、昔からこんな言いましたんや」と言いますと、「そんな迷信や」でおしまいです。(笑)。で、これは海草やからヨードがありまっしゃろ、ミネラルが、鉄分が、ビタミンがある。それに「おあげ」といっしょにたくから植物蛋白があつて脂肪もある、というて初めて「なるほどなあ」と納得してくれはるんです(笑)。

昔の人は、ビタミンがどうかいうこと何にも知らはらしませんのにね、ちゃんと心得てはったんですねえ。

木原 そうですね。別に難しいことを言わなくても、合理的な食生活をおくっていただけですね。このごろは栄養がどうか科学的にはなりましたが、かえって太り過ぎがふえたりで、どっちが「進歩」しているか、という気がします。たしかに材料は豊富になったかもしれませんが…

大村 そやけどね、材料も昔のほうがおいしいんですよ。私の甥がインドネシアでくらしまして、私も毎年行くんですが、行ったら必ずお塩を買って帰るんです。ほんまに原始的に天日で干した塩でね、おいしいんですよ。お漬物にしたかて、ぜんぜんお味が違います。お塩ってこんなに甘いもんやったかしらんと思うほどです。

木原 それが本来の食べ物の味なんでしょうねえ。私は経済学をやっていますので、すぐそういう方面から考えるのですが(笑)、大量生産になると食べ物だめになりますね。日持ちすることを考え

それは心強い。実は私の家もそうなんです。

るから、いろんな添加物が入るし、油が入る。味も落ちます。そんなことを言っていると競争に負けるとかでね。だから私、いつも言っているんです。物は豊かにはなったが、どこか貧しい、何かおかしいと。

大村 そうです、そうです。よく、子たちが喜ぶからとファミリーレストランに行かかりますね。

うれ、はたしてええんやろか、あんなご馳走やと思つて、そんな舌に育てられたら、子たちはえらい災難やと思うのですよ(笑)。やっぱり千切りでもなんでもいいから、コトコトと家で作つて、家の味を覚えさせてあげる。その方がよっぽど豊かでええなあと思います。

木原 昔の話ばかりすると年より扱いされますが(笑)、貧しくても季節季節のものがあり、いろん

なものが食べられましたね。

大村 そうです。今は一年中おなすやらきゅうりやらありますが、昔と味が違いますやろ。私は夏になって、農家の方が「地のものができました」というて持ってきてくれるまで食べしません。そしたらね、夏になったら喜びがあります。あつ、きゅうりが出たな、おなすが出たな、夏になったなという喜びが…。私はがんこに夏しか食べませぬのですよ。

木原 そうですか。それは私も大いにまねさせていただきます(笑)。

大村 子たちもね、季節になって地のものをいただく「ああ、おいしいなあ」と言わはんのですよ。子たちの口の方がよっぽど、よう分かるわと言うてからに(笑)。

冷房も洗濯機も必要なし

木原 私もういしいものですから、つつい食べ物の話に花が咲きましたが(笑)、くらし方、生活の仕方もずいぶんと変わってきました。大量生産の時代で、やれ洗濯機だ、テレビだと家庭に行き渡るようになり、便利にはなりました。しかし便利ではあつても、本当にそれが豊かなのか、文化的



プロフィール

木原正雄 (きはら・まさお)

1918年生れ。京都大学名誉教授。1990年5月より京都府生協連会長。

だろうかという疑問があります。これは、大村さんも本のなかで書いておられたと思いますが。

大村 私ね、冷房がいやです。それで家には冷房がなく、人が来るとびっくりしはるんです(笑)。夏になれば、パーッと開けっ放しにしてくらしてます。でもこの頃は開けっ放しにしていると、よそさんがみな冷房しているもんですから、熱風が入ってくるんですよ(笑)。

木原 私のところも冷房なしでくらししています。そのほうが気持ちいいし、冷房なんてけっして体にいいことない。昔はみなさん冷房なしでくらししていたんですが、いったん入れてしまうとなかなかガマンできない。

大村 私のとこね、洗濯機もないんですよ。めずらしいでっしゃろ(笑)。

木原 それは心強い。実は私の家でも洗濯機は使ったことがないんです(笑)。

大村 いやいや、そうですかあ(笑)。うれしいわあ。

木原 いつも「洗濯機がない」と言う「おまえ

はバカか」と言われるものですから、意を強うしました(笑)。

大村 そうです、「へえー、洗濯機もないの。あんた何で洗うの」って(笑)。「そんな、手で洗うんや」言うてますけど、使わなければ使わないで何ともあらしません。かえってね、手を使って洗い物していると、いろいろ考えが浮かぶんですよ。「あっ、今度あれを書こう」とかね。

木原 そう、手を使うということは大事なんですよ。手を使うことで頭が発達するんです。よく子どもたちがナイフで鉛筆を削れないという話がありますが、これは人間の考えをめぐらす能力が育っていないということなんです。鉛筆を削る手作業は、自分で工夫して考えていくことを育てる。電気鉛筆削りは便利ですが、一番人間にとって肝心なことも削ってしまっているといえます。

本来、科学技術の進歩は人間を豊かにすると思われていますが、いまのような「便利」だけの科学技術の成果の利用では、かえって人間の退化を促進しているのではないかとも思えますね。

大村 そう、だんだん頭を使わなくなってしまうのではと(笑)。

### 「しまつ」と「ぜいたく」は背中合わせ

木原 それから「もったいない」ということがなくなって、非常にむだづかひが増えてますね。ティッシュペーパーや紙おむつ、ああいうものは本当に資源の浪費でしかないと思います。

大村 私もそう思いますねえ。やっぱり紙おむつじゃなくて、きれいに柔らかく洗い古したおしめをしてあげたほうが、ずっと子どもにはいいなあと思うてます。おしっこがついていたら気持ちが悪いくらいということを覚えさせないとねえ。

木原 何もケチケチするということではないと思うんです。よく京都はケチケチしていると言われ、お茶漬の話も出ますが、けっしてそうではないと…。

大村 お茶漬けってぜいたくなんですよ。テレビでもなんでも、お茶漬けを食べてはるシーンはなんや貧乏くさいからあかんのです(笑)。私ら、お茶漬け食べようと思ったら、塩こぶとか何かたいしたものとか、コチョコチョと前に並べて、お酒呑まはるのと同じようにしていただいています。こんな食べ方、知ってはるんやろかねえ(笑)。あの「京都でぶぶ漬けでも」と言われたら、追い出している

ことや」というのは落語の作り話です(笑)。

それから私ら小さいときに、おばあさんから「京都はしまつや。そやけどしまつというのはケチとは違う。後始末することえ」と言われました。たとえば、おこうこをたくとき、おこぶに湯をかけて、つけだしを取ります。そのあと、おこぶを切って塩こぶにいただきます。するとだしが出ていないから、おいしいんです。知らない人が見ると「あら、あなた、だしがらを食べるの」といわはんですが(笑)、違うんです。一番上等のおこぶを使わんことには、おだしを取って、あと食べるなんてことできません。安もんのおこぶではあかんのです。ですから、「しまつ」と「ぜいたく」は背中合わせなんですよ。

木原 むだがなく合理的なんですね、京都のくらし方というのは。むだということでは、最近の大型車もむだな話です。日本には全然必要のないもの。狭い京都の道をなおさら狭くして、交通渋滞を招き、時間のむだをつくらせている。企業は大量生産して売らなければならぬから、次々と新しい便利なものを開発して買わせようとする。その結果、消費者はローンという借金をして、まだ使えるものでも新しく買い替える。そして大量に資源が浪費され、人間は考える力がなくなっていく。どこかでこの悪循環を断ち切る必要がありますねえ。

大村 そうですねえ。もう一つ最近、京都で腹が立つのは、マンションなんです。誰も住んでいないマンションがたくさん建っています。みな、企業が税金対策で買ったり、東京の人が年に一回、大文字を見るのに部屋を確保したりで…。

木原 本当に、このままでは京都のまちは大変なことになると思います。

大村 私ね、いつも200年、300年あとに、あの時代の人にはアホやったなあと言われんようにせなあかんと思うてます。

木原 私たちの経験が知っている京都のよさを、なんとか若い人たちに伝えていかなければなりませんね。その点、大村さんは京都のよさを守ってくらしていらっしゃる。私も大いにまねをしたいと思っています(笑)。

大村 いえいえ、私も今日はずいぶん心丈夫になりました(笑)。ありがとうございました。

# 2月全国組合員活動交流集会 に参加して

来年の京都開催にあたり

1月29～30日、千葉県幕張メッセで開かれた日生協の第3回全国組合員活動交流集会(2月集会)に参加してきました。この集会是今回が3回目で、首都圏と関西で交互に開くことになっているようで、最初が横浜、去年が神戸、今年は千葉、そして、来年は何と(!)私たちの京都で開かれることになっているのです。

2月集会のメインテーマは「豊かなくらしづくりと明るいまちづくりをめざして」です。全国の仲間が、専門分野の活動について活動報告することで、交流に参加する集会所として企画されています。交流は分科会が中心で、テーマも、商品の開発や利用・普及の取り組み、産直活動、環境問題や平和、消費税廃止の取り組み、灯油運動、くらしの助け合い活動、まちづくりなど、多岐にわたります。今回の場合、分科会は19会場設定されました。参加規模は、86生協、2,000人、分科会では、58生協から、294本の報告がありました。京都生協は9本の報告を行いました。

さて、専門分野の活動とは言っても、あまり堅苦しく考える必要はないようです。分野ごとの委員会活動だけでなく、運営委員会や組合員センター委員会の普段の活動、行政区やブロックで行われている多様な活動を、ありのままの姿で発表し、交流していけば良いと思います。京都生協では、90年度から年3回の「組合員のつどい」という場で、運営委員会、地域の組合員の声に基づいて自主的に多様な活動をすすめていこうとしています。91年度もいろいろな取り組みが広がっていくと思います。1年間の活動を振り返って、来年の2月集会で気軽にどんどん発表し、全国の仲間と交流できたらいいですね。

もうひとつ、交流は昼間の公式プログラムだけ

ではありません。失礼になるかも知れませんが、今年の会場はウォーターフロントの埋立地で、周辺は近代的な建物はあっても、「まち」として成熟しているとは言い難い場所柄でした。第2部(夜)の交流の中でも、「京都に来てよかった」と喜んでいただけるよう、京都の良さを生かした企画を考えていきたいですね。

何はともあれ、「こんなに多くの仲間が全国で同じ思いで活動している」という励ましを贈り、贈られる集会所となるよう、今から準備を始めていきたいと考えています。

(京都生協総合企画統括・門脇 馨)



# 誰もがあたりまえの生活を、 地域でできるために

'91京都アクション [共同作業所連絡会]

京都府障害者共同作業所連絡会は、3月9日、'91京都アクションを京都駅前で行いました。10時から19時までの9時間、小規模作業所の本格的制度化の署名を訴え、30名の弁士によるリレー宣伝を行いました。

今年、国際障害者年の最終年にあたり、「20世紀の障害者問題を21世紀にもちこさなために」をスローガンに、連絡会では10年計画の完全実施を要求しています。

今年は、JR京都駅と京都市交通局の協力をえ、京都駅中央口付近で作業所を紹介するパネルの展示や手紙を添えた風船を手渡ししながら府民にアピールしました。

1988年、共作連全国集會に生協が実行委員会に加わって以来、共作連ふきんの共同購入の取扱いやお互いのイベントに参加するなど事業・行事そして共通の運動にも参加してきました。最近では、牛乳パックの回収運動にもかわり、地域での福祉ネットワークづくりをめざしています。

今年の課題は、国庫補助制度の改善だけでなく、障害者が1人の社会人として地域で自立していけ

るために、グループホーム制度の拡充を要求しています。また重度障害者対策についても、既存の施設だけでは対応できず、地域生活援助システムの確立が求められています。

政府は福祉を個人の責任に転化しようとしています。連絡会では、地域で誰もがあたりまえの生活ができるように、地域ぐるみの福祉をみんなで提案していきましようと呼びかけています。

なお、京都府生協連からは井上吉郎専務理事が弁士の1人として参加しました。(M)



# 2つ目の「助けあいの会」が うぶ声をあげました。

「上京くらしの助けあいの会」が設立総会

京都生協くらしの助けあいの会は、3月11日、「左京くらしの助けあいの会」に続く2つめの「上京くらしの助けあいの会」設立総会を、せいきょう会館で開催しました。

2年前の上京地区別総代会での、出水待賢運営委員会の発言がきっかけになり、約2年間ふれあい委員会で保健所、福祉事務所、京都市社会福祉協議会の協力をえ、学習を続けてきました。何ができるのか、どんな会にしたいのか、討議を重ね、そんな中で会員としての自覚を育て、今回設立の運びとなりました。

はじめに京都生協横関武理事長のあいさつがあり、続いて来賓紹介のあと、上京くらしの助けあいの会委員長中川千恵子さんが経過報告をしました。

会のきまりについての小橋偕子さんの報告では、介護などの専門的な援助活動は原則としておこなわず、ちょっとした生活援助・家事援助を中心的な活動とし、誰にでもできる活動をより多くの組合員に広げることが当面の課題としているという

ことです。従って無償サービス活動とせず、活動を継続的に責任をもってすすめる上での実費弁償程度の1単位(2時間)700円とし、また活動時間も無理のないよう10時から17時に制限して、最大活動時間を1日4時間、1週間4日で、日曜・祭日はお休みとしています。

現在、登録会員は105名ですが、1,000円の年会費を支払い登録すれば誰でも会員になれます。

この活動を通じて、会員が平等に発言しあい民主的な運営を進めながら、生協の事業活動の一環として組合員の生活実態を生協運営に反映させ、さらには私達が住んでいる地域社会の中で、要求をほり起こし行政諸機関に要求していこうというものです。

会では、会員拡大を重点におきながら活動経験者を増やしていくことを当面の活動方針としています。また、月1回の学習会の計画や左京の会とのコーディネーター研修会も予定しています。

総会の最後に、井上吉郎・京都府生協連専務理事が記念講演しました。(M)



## 網野町に産婦人科医院を！

組合員が  
要望署名

あみの生協生活部会では、家庭排水のチェック活動や網野町の水の源である福田川の見て歩きをする中で、町全体を見渡す機会をもちました。

網野町にはかつて、岩崎医院、桜井医院に産婦人科がありました。現在では新しい生命誕生の場がなくなり他町の病院まで行かなければならなくなりました。新しい生命は家族にとって大きな喜びであり、いち早く対面し、将来の喜びを共にしたいものです。また、祖父母にとっては他町の病院では交通の便も悪く、ままならない現状など組合員さんから意見がたくさん出てきました。

そこで網野町に対して産婦人科医院設置を要望することになりました。有権者11,000人のうち3,728人の署名が2週間で集まり、2月7日に署名簿を町長に手渡しました。町長から「産婦人科医院設



置の方向で考えていきたい」という心強い返事をいただきました。さっそく部会では、次年度の実現にむけてさらに取組みを進めていこうと話合っています。

(あみの生協生活部会長 松本孝子)

## みんなでつくる映画会

COOPモーニングシアター

「映画好きですか。よく見に行きますか」と尋ねると、多くの主婦からは「行きたいけど」「若い時はよく行ったけど」と答えが返ってきます。そうなんです。この企画は「昼間なかなかゆっくり映画なんて」という主婦のために、午前中にゆっくり映画館で映画を見てもらおうと考えられた取組みです。朝日シネマから東ブロック生活文化委員会に提案があり、それを機にこの活動が始まりました。

生活文化委員会で話し合い、検討しました。まず、朝日シネマを知ろうと、団体鑑賞会を開催したり、参加の皆さんの映画に対する関心度を知るために、アンケートに答えてもらったりして、COOPモーニングシアターの準備を進めてゆきました。

現在、モーニングシアターは、隔月に一週間、朝日シネマ2で、委員会で選定した作品を午前9時30分または10時より1回上映しています。チケットは、共同購入の支部別企画とシネマワーク共通映画券で取り扱っています。

この取組みで私たちの一番の興味は、上映作品の選定です。それぞれの若い頃の思い出や懐しい映画シーンの説明をしあって、いい作品、見てもらいたい作品を決めてゆきます。そんな時の皆さんの表情は、いきいきと人生の夢を語っているように輝いています。

今までの上映作品をあげますと、5月「カサブランカ」、7月「黄昏」、9月「クレイマー・クレイマー」、11月「羅生門」、1月「グランド・ゼロ」、3月「風の又三郎」で、かたよらないようにいろいろな作品を選びました。

そんな1年の経験を生かして今年の5月には、3作品連続で上映し、女性には人気の高い作品を集めてみました。題して「くらしかる・ラブ・ロ



5月上映予定の「心の旅路」

## 「美浜原発事故」で学習会

京都生協伏見行政委員会

3月9日、京都生協の伏見行政区委員会主催の学習会「美浜原発に何が起こったのか」が、京都生協の大手筋組合員センターで開かれ、中島篤之助氏（中央大学教授）が講演しました。中島氏は、「原子力発電安全委員会が『安全宣言』委員会となっているうえ、建設時に原発の安全を認めた科学者が、その原発の事故時の調査にもかかわることがあるという問題がある。さらに、今回の破断細管の検査は、製造者の三菱重工による当事者調査である。原発の技術はまだまだ確立されておらず、事故時のマニュアルもなく、運転停止基準もない。

今回出された基準、『2次冷却水の放射能が2割上昇すれば運転停止』というのは、役人のいう安全性に過ぎない。これまで『破断の前には兆候がある』といわれてきたが、この点で、今回の事故はいままでの事故とは根本的に違う。安全対策について抜本的な見直しが必要である。」と語りました。

講演のあと、参加者は、環境の放射能汚染への不安を訴え、環境への負荷のない新規エネルギーへの期待をよせていました。(S)

マンス」。5月18日から「心の旅路」、25日から「哀愁」、6月1日から「或る夜の出来事」です。

今後の活動の課題のひとつは、どのようにしてもっと広く宣伝してゆくかです。そしていい作品にめぐり逢い、感動の輪を広げ、共感し、喜びを語り合い、若い頃とはひと味違った見方に人生を感じたりできる会にしたいと思っています。

(京都生協東ブロック生活文化委員 小林洋子)

# 21世紀の協同組合

古い体質の協同組合は歴史の舞台から去り、社会の変化を先取りした新しいタイプの協同組合にその席を譲ろうとしています。今、世界中でさまざまな実験や模索が繰り返されていますが、どのような協同組合が歴史の審判に耐え、21世紀に花開くことができるのでしょうか。

## 「脱工業社会」の到来

新しいタイプの協同組合が注目され始めたのは1970年代頃のことです。「脱工業社会の到来」が言われたのもちょうどこの頃でした。イギリス産業革命から数えて200年。人々のくらしや意識を業績本位、経済成長本位のものにしてきた工業社会にもようやくかけりが見え始め、社会批判が噴出した時代でした。そして人々が何かを変えようとしていた時代でもありました。それでは、新しいタイプの協同組合は今一体何を変えようとしているのでしょうか。ここでは、新しいタイプの協同組合をいくつかのパターンに分けてその特徴を見てみることにします。

## 生産と消費の新しい関係—共同購入システム

安全とか健康とか目的はさまざまですが、共同購入システムは世界各地で発展しています。形態はちがっていても、共同購入は、通常市場で手に入れることができない商品を手に入れるためにあります。消費者は生産者や企業の売らんかなのマーケティングを拒否して、生産と消費の新しい関係を求めています。工業社会で無視されたり排除されたりした有機農業や低農薬農業、地場産業などの再構築に向けた動きがすでに始まっています。その担い手は、日本では生協の共同購入が有名ですが、欧米では消費者グループの活動が活発で、自治体に支援されたグループや株式会社形態をとっているものもあります。

## 環境や福祉をテーマとする協同組合

リサイクル活動や老人福祉ボランティア、障害

者の自立といった環境や福祉をテーマとする協同組合の発展も急速です。工業社会ではこうした労働は金銭的に評価されにくいこともあって、一部を除けばその社会的評価は低く、多くの場合無償でした。こうした労働に光を当てたのは、日本では各種のボランティア団体や共同作業所などの功績ですが、最近では生協の組合員活動として取り上げられることも多く、法的保護を得るために環境生協や福祉生協の設立に向けた動きも活発です。

社会保障の進んだスウェーデンでも福祉分野の協同組合が注目されています。スウェーデンの経験が教えてくれることは、高齢者や障害者が自立できるようになるためには、国や自治体の公的援助と地域住民の相互扶助がともに必要だということです。

## 「参加」を重視する協同組合

協同組合において「参加」の重要性を強調することが先進工業国に共通した傾向になっています。とくに日本の班活動は国際的にも注目され、ICAにおける「基本的価値」に関する検討作業にとって大きな刺激材料になっていることはすでに紹介しました。

「参加」が強調される背景には自己実現要求の高まりがあります。自己実現要求には、他人との愛情に満ちた関係にたいする欲求、他人から高い評価を受けたり尊重されたりすることへの欲求、潜在的能力を実現しようとする欲求が含まれますが、自己実現要求が顕在化するのとはそうした可能性が閉ざされている場合に多いようです。女性の自己実現とか労働における自己実現という言葉がしばしば使われる理由もここにあります。女性差別や労働疎外の解消は「脱工業社会」に残された大きな課題です。

## 労働を自主管理する協同組合

失業が深刻な社会問題になっていた1970年代のイギリスやイタリアで、雇用創出の手段として協

同組合の設立が相次ぎました。当時、疎外された労働からの解放、人間的労働への転換を目標に、さまざまな実験が行なわれていました。この2つが結びついて、労働者生産協同組合がまたたくまに先進工業国全体に広がっていったのです。

日本でも、中高年雇用・福祉事業団や生活クラブ生協のワーカーズ・コレクティブをはじめとして、高齢者、女性、障害者とその家族等による自主管理グループがつぎつぎに設立されています。こうした事実を見てわかることは、社会的に自立することが大変難しい環境に置かれているために、それだけに強く主人公として自立することが求められているという厳しい現実です。

## コミュニティー開発運動

「協同組合地域社会」のモデルで有名なモンドラゴン協同組合はバスク地方の経済開発や文化開発の中心であり、その影響力ははかり知れません。モンドラゴン協同組合がなかったら、おそらくバスク自治政府も存在しなかったでしょう。

アメリカでは、コミュニティー・ディベロップメント・コーポレーション(CDC)の活動が注目されています。貧困率が13%、子供の5人に1人が貧困の中で育ち、3,200万人余りの人々が貧困線以下にあるアメリカ。CDCは全国で2,000とも9,000以上あるともいわれ、その活動は低所得層住宅の供給から保育、老人ケア、職業訓練、ショッピング・センターの建設、麻薬アル中対策等々にまで及んでいます。CDCの運営は理事会が責任をもって行い、理事会ではその地区の住民が実際に中心的な役割を果たしています。これは住民自身が決定し管理することを原則としているからです。なお規模によっても違いますが、スタッフは有給スタッフ数人と会計士、弁護士、民間企業のボランティアで構成される場合が多いようです<sup>(注)</sup>。

コミュニティー開発を目的とした組織の例はドイツの「自助グループ」にも見られますが、その中には土地や施設を自治体から借り受けて、自動



速く力強い筆運びは努力と熱意を、左右に開いた構図は加盟メンバー6億組合員を有し、その歴史と伝統を誇る国際協同組合同盟を表わしています。デザイン全体では21世紀に向かって環境破壊や貧困と戦い、平和と人間を尊重する社会づくりをめざすICAの創意を象徴します。

車修理工場から製パン工場、保育園、銀行まで経営しているものもあると言われます。こうした例はカナダやアイルランドからも報告されています。

## 新しい協同組合の展望

ここで紹介した組織の中には、法形態としては協同組合でないものも多数含まれています。その理由は、ほとんどの場合法律の整備が遅れているからですが、とりあえず必要に迫られて始めてみたら、いつのまにか事業が大きくなっていったという面もあります。またそれぞれの組織がさまざまな方法で資本主義の修正を試みながら、それに代わるシステムを必死に模索している姿も浮かんできました。さて、この中に21世紀を代表する協同組合のイメージがあるはずですよ。

(京都府立大学講師・的場信樹)

(注)上野真城子「コミュニティー開発運動」(『世界』1990年11月号、150ページ以下)

# ことしも アースデーで 「京都ネットワーク」

フロンガスによるオゾン層破壊、地球温暖化、酸性雨、熱帯雨林の破壊など、地球環境の危機が進行しています。また、湾岸戦争の環境に及ぼした影響も次第に目に見えたものになりはじめています。

このようななかで、ことしも4月22日のアースデー（地球の日）にむけて準備がはじまっています。ことしのアースデーの国際的なテーマは「子どもたちのために」"For the children"となっています。"私たちはこの地球を親たちからうけついでものではない、私たちの子どもたちから預っているものであり、子どもたちのために地球を守りつづければならぬ"ということを再認識しようというよびかけなのです。

京都では昨年のアースデーにあたり「アースデー1990京都ネットワーク」が結成され、39団体52名が登録し、4月22日を前後して数多くの行事が企画実施されました。この「ネットワーク」の関係者の協議のもとに、ことしも「アースデー1991京都ネットワーク」が結成されることになりました。ことしは、京都府生協連も、京都消団連などとともに事務局団体としての役割をになうことになりました。3月12日までにまとめられた第一次集約分では、37団体が参加登録し、現在もひきつづき登録よびかけがされています。また、ことしは市民ひとりひとりの参加とともに、自治体や企業などにもよびかけ、地球環境を守るための行動が具体的に確実に足もとからはじまることが重視されています。3月13日には、このようなことから京都府、京都市に協力要請が行なわれました。

## 〈環境・ゴミ——生協に何ができるか〉

京都の生協でも、このアースデーを機会に身のまわりの環境問題から地球環境の問題まで、事業



アースデー1991京都ネットワークの  
キャンペーン・マーク

活動の点でも、組合員の活動としても運動の輪をひろげていくことがもめられています。

たとえば、いまひろく関心がよせられるゴミ減量化・リサイクルの問題でも、生協に何ができるのか注目されています。牛乳パックやアルミ缶のリサイクル活動、プラスチックトレイや包装資材の問題、生協が取り扱った家電製品やバイク・自転車、乾電池や蛍光灯などの回収処理の問題など、実に多くの問題をあげるができます。ゴミになったものをいかに処理・処分するかということからゴミになるものをいかに作らないか、いかに売らないかが問われるようになっている現在、生協の商品政策のなかにゴミ減量化・リサイクルの視点をくみこむことが必要なのです。組合員のゴミ意識の改革をもとめる啓発活動も重視しなければなりません。

現在京都府生協連では京都市職員組合労働組合とともにゴミ問題を中心にした市民の意識調査・アンケート活動をすすめています。この結果をふまえたフォーラム「ゴミ減量化とリサイクル——生協に何ができるか」を6月5日に開催する予定です。

「地球環境の危機はまったなし」といわれる今日、アースデーがより多くの人びとの環境問題への関心を高める機会となることが期待されているのです。(H)

# あとは「合格」を待つばかり!?

## 受験生の父母懇談会



京大大学生活協同組合では、2月25日に「京大受験生の父母懇談会」を開催しました。これは、京大受験生の父母に対して、一足早く入学準備や大学生活の様子を知らせる、という目的で毎年企画されているもので、今年も前期入学試験の初日にあたるこの日に、約50名の父母の参加を得て行なわれました。

理事長と常務理事のあいさつの後、京大生協の行なった学生生活実態調査（一部大学生協京都事業連合の行ったものも含む）の結果分析にもとづいた入学準備と大学生活全般の報告と、男女一名ずつの京大生協の学生委員による、自らの入学準備の体験談と大学生活の報告が行なわれました。報告中は熱心にメモをとりながら聞く参加者も多く、また女子受験生の父母が多数参加していたためか、女子学生委員の報告は特に熱心に聞かれて

いました。

その後、父母と生協職員と学生とが一緒になって5つのグループに分かれて質疑が行なわれました。質問の内容は、最近の学生のマンション志向の高さを反映してか、住生活についての質問が多く、学生が自分の下宿の様子を詳しく伝えている姿が多く見られました。その他にも、勉学生活・アルバイト・サークル活動・食生活などについての父母からの質問が矢つぎ早に出され、40分間の質疑の時間があつという間になくなってしまいました。

アンケートでは、「とてもわかりやすかった」という声が多く、参加者は入学準備と学生生活についてかなりの知識を得た今、あとはかんじんの「子供の合格」を待つばかりとなっていました。

(京大生協学生委員長・中森一郎)

## 子供たちにきれいな川を残すために…

京都生協西ブロックが活動する地域には京都の名勝嵐山を流れる桂川をはじめ、天神川、有栖川、小畑川と汚れがひどいと言われている川がたくさんあります。

私たちが出した生活排水がいかに地域の川を汚しているのか、実際、目で見えるためにやり始めた水質調査も今年で3年目になります。

河川の水質調査は本来BOD検査をするのですが、当時まだ簡単な検出法が無かったので、洗剤の残留濃度を調べるポナールキット法と、水の透視度を調べる2方法を用いてきました。検査地点は行政が毎月水質検査（BOD検査）を行っている同一地点で調べ、比較しています。

多くの人が大変きれいな川と思っている清滝川落合橋付近は、見た目は大変透きとおったキラキラとした水（透視度1m以上）であるにもかかわらず、嵐山渡月橋の濁った水（透視度58cm）よりも洗剤の残留濃度が高いという興味深い結果も出ました。

これは上流の人家から出された家庭排水によるものと考えられます。

河川調査に定期的に出るということは、河川の汚れ具合を実際に自分達目で確かめられるという利点があります。

有栖川が桂川に合流する地点では常時、洗剤の泡がフワフワと立っていますし、油が浮いていたり、ご飯つぶや野菜くず、ゴミ、自転車やバイクなどいろいろな所で捨てられているのを数多く見る事ができます。

遠目には美しい景色の河の風景も近くに寄って見ると、このような様子や、吸み上げた水のくさに驚かされます。

河川の調査も始めて3年目になりますが、下水道ができれば、きれいになりはじめた川、今だに変わらない川、ゴミだらけの川等々、地域に住んでいる住民の意識が川に反映していることを実感します。

今後も、この河川の水質調査を継続し、地域の住民に本当の川の様子を知らせていければと考えています。

(京都生協西ブロック・松井 恵)

# 中東に、世界に平和を

## 湾岸戦争の43日間

1月17日、アメリカをはじめとする多国籍軍によるイラクへの空爆が開始されました。それ以来、戦争終結までの43日間、平和を願う人々の願いをよそに武力行使が続けられ、数多くの死傷者が出ました。また、海洋汚染や油井炎上による環境破壊はこんごも影響がつづくものとみられます。

今回の湾岸戦争は、私たちに多くのことを教えてくれました。その教訓をふまえ、日本の私たちが世界の平和と環境を守るために何をしなければならないのか、考えあうことが必要とされています。

今回の湾岸戦争にあたり、京都の生協は、湾岸戦争の即時停戦と日本政府の戦争協力中止をもとめる行動をすすめました。

京都生協では、1月21日の理事会声明の発表を受けて、各地域でのさまざまな活動が組合員の創意のもとにすすめられました。ターミナルや生協組合員センター前での宣伝、署名行動やアピール行進、学習会など、戦争反対の意思表示が行なわれました。沈黙せずにできることから行動した人、行動できないが新聞の意見広告に名前を連ねたり、募金に参加した人、日本政府の90億ドルの戦費負

担に反対した人、思いも行動もいろいろでしたが、平和を願う気持は同じでした。

大学生協の組合員は戦争に協力する日本政府に抗議し、「アメリカのいいなりになるのもいいかげんにせよ」「学生は学費が高くて困っている、戦争協力金を大学予算に回せ」「核兵器を使わず戦争を終結させよう」「私の彼は戦争にはやらないわ」と、若者らしくアピール行動をつづけました。

京都府生協連でも、2月4日の理事会で、「湾岸戦争の即時停戦と日本政府の戦争協力中止を求める決議」を採択し、2月16日には円山公園から京都市役所までの「虹のアピール行進」、ひきつづき四条河原町での街頭宣伝を行ないました。寒風のなか、日本生協連の提唱する署名と、ユニセフの湾岸戦争難民救済募金をよびかけました。

戦争は終わりましたが、中東地域に真の平和が訪れるまで、まだ道のりは遠いとみられます。環境への影響もその深刻さが次第に明らかになっています。中東に、世界に、平和がとりもどされるまで私たちの運動も休むことはできないでしょう。

(H)



京都生協南ブロック3・2湾岸戦争反対市民フォーラム



京都生協タイタンデモ



僕にも言わせて！ 大学生協のメンバー



京都生協「湾岸戦争に反対する伏見行政区の会」  
伏見大手筋でのアピール行進



私達も「ゆるさん！」



2・16「虹のアピール行進」



2・16「虹のアピール行進」



京都生協両丹ブロック学習会



京都生協右京支部ターミナル宣伝

## 「職場に生協利用増大運動の風を まきおこそう」と訴え

組合員、府職員の食事「朝・昼食」事業を担い、生協の経営する職員食堂が、昨年9月から続いている食料価格の高騰で、メニュー価格の改定を余儀なくされる状況に直面しています。

理事会としては、職員食堂は組合員の暮らしと健康を守り、福利厚生活動の支柱であること、また来年5月には新庁舎「福利厚生棟」が完成し、ここに新食堂、店舗など生協施設が入り、念願の生協施設の整備、拡充が実現するなどあって、新食堂完成まで価格据置きで頑張る方針を確認しています。

当面、組合員に、職員食堂の現況を訴え、組合員の利用増大を呼びかけながら、職場の中に生協事業への利用結集増大運動の風をまきおこしていこうと、門前でビラ配布を行いました。

雪の舞う早朝、2,400名の組合員さんひとり一人

にビラを手渡し、生協への利用結集を訴えました。組合員からの声援や職場で「生協も大変なんだな」と話題になり、大きな反響がありました。

生協運動の原点にもどり、組合員と専従役職員が智恵と力を寄せ合い、生協事業の健全経営をめざし、役職員が先頭に奮闘しています。

(京都府庁生協常務理事・藤田康夫)



## 鉄鉢料理で新年交流会——京都医療生協

2月22日、新年会を兼ねて、京都医療生協の組合員交流会が開かれました。

所は大徳寺の泉仙。夕方から雪となったそれはそれは寒い日でしたが15班38名が参加、珍しい鉄鉢(精進)料理と少々のお酒で素敵になごやかな交流会となりました。

はじめに、先日「百まで生きよう会セミナー」で話題となった尿失禁について、ここでも又、質問や経験談が話されました。お年寄りのかくれた不安がうかがえます。「でも、ご安心を。体操や治療でちゃんとなおりますよ」というお話です。

この百まで生きよう会は今年度、京都医療生協の台風の目のような活動ぶりですが、この日も月1回歩いていますの発言に、「どこへ行けば参加できますか」と早速仲間が増えていました。

環境問題、平和、水泳、チャリティー活動、各班のいろいろ工夫をこらした活動も話されました。また、「出産後の健康相談にのります」と助産婦さ



ん。「明治大正の頃の映画があるのでどこへでも写しに行きます」など積極的な協力の申し出もあってお互いとても勇気づけられました。

後、三三五五境内を散策。人影のない冬の大徳寺はなかなかロマンチックでした。

(京都医療生協理事・あざみしょうこ)

## ●気になるこの本

# 『努力を楽しもう』

## 石黒武重先生小伝』

編集 東京都生活協同組合連合会

日本生活協同組合連合会

発行 日本生活協同組合連合会 (1991年、定価1,800円)



東京都生協連40周年を記念して「努力を楽しもう——石黒武重先生小伝」が、日生協から刊行されました。石黒先生は、日本協同組合貿易株式会社社長、全日本事業生協連会長、日生協会長などを歴任され、現在もお93歳という高令にもかかわらず現役として砧生協理事長、東京都生協連会長をつとめておられます。日生協総会に参加したことのある方はおそらく、総会が毎回、石黒先生の発声による「日本生協連、万歳」で閉じられることを覚えておられることと思います。いろいろ議論のあったあとでも、みんながまた一年大先輩とともにがんばっていこうという気持ちになったのではないのでしょうか。

「小伝」は、生い立ちから人となり、官界政界での活躍、生協とのかかわりと活動を年次的にたどった本文と講演、対談2本からなる付録の、2つの部分でできており、昭和恐慌後の農村再編、農村経済更生運動へのかかわりや戦後の東京の生協運動で果たした役割、日協貿づくりや事業連、日生協での活動などについては、付録が本文を補ってよくくわしい事情を伝えてくれています。

石黒先生については、高村日生協現会長が序文のなかで「異色の大物」と述べられているように、生協陣営のなかではきわめて特異の経歴の方です。官界では農林次官、内閣書記官長、政界では国務大臣、民主党幹事長という、いわばその分野のトップクラスの方が生協陣営に入ってこられたわけですから、生協にとっては願ってもない「助っ人」であったといえます。「小伝」は、そのいきさつ、果たした役割などについてよく伝えてあります。しかし、なぜ生協に専念されるようになったのかにつ

いての原点と、経国済民の為政者から民衆＝働く人の「助っ人」への立場の転換について知りたければ、若干の推理、推測が必要のようです。農村経済更生運動の企画、推進に深くかかわり、産業組合課長をされたから、というのもひとつの答です。むしろ私は、おばあさんの教えとして先生が強調されている、働く人や米粒などの労働生産物を大切に考える考え方(家庭教育の重要性を思わずにはられません)、大正デモクラシーとロシア革命の時代に青春時代を過したこと(「自由、平等、博愛」のフランス革命の思想を社会発展の基礎と教えておられる)、石黒忠篤氏の影響などをあげたいと思います。

今年の1月に東京都生協連40周年記念パーティーが開かれ、石黒先生は会長としてご挨拶をされました。元気で、いつもの張りのあるお声でした。一昨年には、京都にお出でいただき、お話を聞く機会も得ました。私自身は、日生協に勤務していた時、親しく身近で教えていただきました。石黒先生の、いっそうの長寿をお祈り申上げるとともに、生協の歴史のひとつの証言として、また一協同組合人の歩みとして、この「小伝」が多くの人に読まれることを願っています。

(京都生協専務理事・吉田智道)

## 91 アースデー京都集会

- 4月21日(日) 午後1時30分
- 洛陽教会 (寺町丸太町上ル)



講演 「地球を救う市民の役割」

読売新聞 解説委員 岡島成行 氏

お問い合わせ先 京都消団連 (Tel 075-251-1001)

## カクラバ・ロビの世界

アフリカン・パーカッションの至宝。そのリズムは語る。

- 4月25日(木) 夜7時開演 3,000円
- 府民ホール・アルティ (烏丸今出川下る)

主催/カクラバ・ロビのパーカッションを聞く京都の会 (Tel.075-231-6104)

後援/外務省、ガーナ大使館、朝日新聞京都支局

## 「京都原発問題情報ネットワーク」結成のつどい

- 4月26日(金) 午後1時30分
- 京都府立勤労会館 (烏丸丸太町下ル東側)

お問い合わせ先 京都消団連 (Tel.075-251-1001)

フォーラム 〈世界環境デー記念〉

## ゴミ減量化とリサイクル—生協に何ができるか

- 本能寺文化会館 (河原町御池・市役所前)
- 6月5日(水) 午前10時—午後3時

主催 京都府生協連 (Tel.075-251-1551)